

理工学部カリキュラムポリシー<2020および2021年度入学者>

	大学共通	物質生命理工学科	情報科学科	システムデザイン学科
CP	成蹊大学は、「学位授与の方針」を踏まえ、次のような方針で教育課程を編成・実施します。			
CP1	(CP1) (各学科、各専攻の) 専門分野を系統的・体系的に学修できるように、各科目を適切に配置する。	(CP1) 物質生命理工学科の専門分野を系統的・体系的に学修できるように、各科目を適切に配置する。	(CP1) 情報科学科の専門分野を系統的・体系的に学修できるように、各科目を適切に配置する。	(CP1) システムデザイン学科の専門分野を系統的・体系的に学修できるように、各科目を適切に配置する。
		(CP1-1) 1年次に「理工学の基礎」および「科学技術者としての基礎」科目を設置し、本学科の基本となる物理・化学・生物を少人数クラスにおいて着実に学ぶ。 (CP1-2) 2年次には専門技術の基礎となる学科主要科目を配置し、それらを確実に修得するとともに、実験・実習を通して技術者として必要な様々な手法・技法を身につける。 (CP1-3) 3年次には幅広い先端的専門科目を配置し、その中から学問的興味および志望分野にあわせて自由に科目を選択し、専門知識を修得する。また、後期には配属研究室における少人数での輪講・実験科目を配置し、より高い専門性をもった知識と技術を集中的に身につける。 (CP1-4) 4年次には卒業研究を配置し、1年間の研究の遂行を通して、「計画力」「実行力」「問題解決能力」「発表力」を実践的に養い、科学技術者として必須の素養を確かなものとする。	(CP1-1) 1、2年次には「理工学の基礎」および「科学技術者としての基礎」科目を設置し、科学技術者として、理工学に携わるための基礎知識を確実に身に付ける。さらに、情報科学の基礎科目であるプログラミングや情報通信、画像処理、情報数理に関する基礎を身につける。少人数クラスによるフレッシュャーズ・セミナー、実験では、その内容・技法を確実に身につける。 (CP1-2) 3、4年次には多分野の専門科目を配置している。将来の進路を見据え、自身の希望に適合する分野に関連する科目を中心としてより深い専門知識を学ぶ。3年次後期からは研究室に所属し、さらに専門性の高い知識や技法を修得する。 (CP1-3) 4年次には卒業研究を配置し、先端技術に関する課題・システム化関連課題・境界領域課題等を設定しそれを遂行することを通じて、企画力・遂行力・ディスカッション力・プレゼンテーション力を養う。	(CP1-1) マルチコース制により複合専門分野を学ぶ系統履修科目、および、学んだ理論を実践するプロジェクト型科目を両輪とする「工学デザイン教育」を通し、高い問題解決能力を養う。 (CP1-2) 系統履修科目では産業界で求められる専門知識と思考能力を養うため、低学年では幅広い教養(学部共通科目)と技術者としての基礎(科学技術者としての基礎科目、理工学の基礎科目、コース共通科目など)を身につけ、3年次から4つの専門コース(機械システムデザイン・エレクトロニクスデザイン・ロボティクスデザイン・経営システムデザイン)のうち2つを選択するマルチコース制で高度な複合専門知識(専門科目)を学ぶ。 (CP1-3) プロジェクト型科目は各学年に必修として配置し、実際の設計製作に取り組むことによって学んできた理論を実践する。4つのコースが関連した複合的な課題に対し、学生がチームを組み、議論、設計、製作、プレゼンテーション、評価に取り組む。 (CP1-4) 4年次には卒業研究を配置し、所属研究室において設定されたテーマについて自主的に研究を進め、課題発見力・問題解決力・プレゼンテーション力などを養う。
CP2	(CP2) 広い教養と汎用性の高い技能を修得するための科目群「成蹊教養カリキュラム」を設ける。	(CP2) 広い教養と汎用性の高い技能を修得するための科目群「成蹊教養カリキュラム」を設ける。	(CP2) 広い教養と汎用性の高い技能を修得するための科目群「成蹊教養カリキュラム」を設ける。	(CP2) 広い教養と汎用性の高い技能を修得するための科目群「成蹊教養カリキュラム」を設ける。
		(CP2-1) 理工学部の基礎科目が習得できるよう、数学、物理、化学、英語などの基礎科目を低学年次に配置する。	(CP2-1) 理工学部の基礎科目が習得できるよう、数学、物理、化学、英語などの基礎科目を低学年次に配置する。	(CP2-1) 理工学部の基礎科目が習得できるよう、数学、物理、化学、英語などの基礎科目を低学年次に配置する。
CP3	(CP3) 視野を広げ、多面的な思考を促進するとともに、異分野の学生との交流、多様な人々との協働を図るために、学部学科の枠を超えて幅広く学ぶことのできる仕組みを設ける。	(CP3) 視野を広げ、多面的な思考を促進するとともに、異分野の学生との交流、多様な人々との協働を図るために、副専攻など学部学科の枠を超えて幅広く学ぶことのできる仕組みを設ける。	(CP3) 視野を広げ、多面的な思考を促進するとともに、異分野の学生との交流、多様な人々との協働を図るために、副専攻など学部学科の枠を超えて幅広く学ぶことのできる仕組みを設ける。	(CP3) 視野を広げ、多面的な思考を促進するとともに、異分野の学生との交流、多様な人々との協働を図るために、副専攻など学部学科の枠を超えて幅広く学ぶことのできる仕組みを設ける。

理工学部カリキュラムポリシー<2020および2021年度入学者>

	大学共通	物質生命理工学科	情報科学科	システムデザイン学科
CP4	(CP4) 思考力、表現力、課題解決力を集中的に錬成するために、(各学科の教育課程の適切な年次に) 少人数の演習科目を置き、さらに卒業論文(またはこれに代わるもの)の作成を必修とする。	(CP4) 大学共通DPおよび各学科固有DPの各項目の達成、及び学生の自発的かつ能動的な学習の徹底を図るため、各学科の教育課程において必修の演習や実験科目を置き、卒業論文(またはこれに代わるもの)の作成を必修とする。	(CP4) 大学共通DPおよび各学科固有DPの各項目の達成、及び学生の自発的かつ能動的な学習の徹底を図るため、各学科の教育課程において必修の演習や実験科目を置き、卒業論文(またはこれに代わるもの)の作成を必修とする。	(CP4) 大学共通DPおよび各学科固有DPの各項目の達成、及び学生の自発的かつ能動的な学習の徹底を図るため、各学科の教育課程において必修の演習や実験科目を置き、卒業論文(またはこれに代わるもの)の作成を必修とする。
CP5	(CP5) 自発性、積極性の達成のため、留学、インターンシップ等の単位認定の仕組み、及び上級者向けの選抜型の科目を設ける。	(CP5) 自発性、積極性の達成のため、留学、インターンシップ等の単位認定の仕組み、及び上級者向けの選抜型の科目を設ける。 (CP5-1) 社会をリードする技術者として活躍する人材を育てるために、「理工学特別選抜コース」を導入した。これからの社会をリードする人材として、教養、専門的な知識に加え、他者とのコミュニケーションをとりながら自らの意見を発信する能力を身につけるため、学部共通の上級共通科目をおき、さらに理工学研究科専攻共通科目の履修も認める。	(CP5) 自発性、積極性の達成のため、留学、インターンシップ等の単位認定の仕組み、及び上級者向けの選抜型の科目を設ける。 (CP5-1) 社会をリードする技術者として活躍する人材を育てるために、「理工学特別選抜コース」を導入した。これからの社会をリードする人材として、教養、専門的な知識に加え、他者とのコミュニケーションをとりながら自らの意見を発信する能力を身につけるため、学部共通の上級共通科目をおき、さらに理工学研究科専攻共通科目の履修も認める。	(CP5) 自発性、積極性の達成のため、留学、インターンシップ等の単位認定の仕組み、及び上級者向けの選抜型の科目を設ける。 (CP5-1) 社会をリードする技術者として活躍する人材を育てるために、「理工学特別選抜コース」を導入した。これからの社会をリードする人材として、教養、専門的な知識に加え、他者とのコミュニケーションをとりながら自らの意見を発信する能力を身につけるため、学部共通の上級共通科目をおき、さらに理工学研究科専攻共通科目の履修も認める。